

(財)吉田茂国際基金への感謝状贈呈式 (概要)

開催日時： 平成 23 年 7 月 5 日(火) 午後 3 時 30 分～

開催場所： 郷土資料館 研修室

式典内容： 目録贈呈、感謝状贈呈、あいさつ、記者会見等

出席者： 財団関係：和田専務理事、柴田國學院大学准教授

大磯町：町長、教育長、首席理事、理事、教育委員会理事
教育委員、代表監査委員

議員：国会議員、県議員、町議会議員

民間：旧吉田茂邸検討委員会、町商工会、町観光協会、大磯城山公園協会
町ガイドボランティア等

新聞記者：読売新聞、朝日新聞、タウンニュース他、

寄附額： 2億 7,658 万 839 円

内訳) 2億円：再建費用に当てる資金

内訳) 7,658 万 839 円：再建後の維持管理・財団が行ってきた内政・外政に
関する資料の保存活用に充てるための資金

調度品： 吉田茂肖像画(油絵)・(原画)、「評伝吉田茂」などの図書、吉田茂書翰
写真、掛軸など

その他： いただいた調度品の一部を企画展示室にて展示します。

ビデオ放映を予定しています。

駐車場は、郷土資料館の駐車場のほか、城山公園駐車場を予定しています。

当日は、クールビズ(ネクタイは着用せず、軽装で行います)で行います。

(財) 吉田茂国際基金への 感謝状贈呈式 次第

日 時 平成 23 年 7 月 5 日 (火)
午後 3 時 30 分から
場 所 大磯町郷土資料館

1. 開 会
2. 目 録 贈 呈 (財) 吉田茂国際基金
代表清算人 和田清治 様
3. あ い さ つ (財) 吉田茂国際基金
代表清算人 和田清治 様
4. 感 謝 状 贈 呈 大磯町長 中崎久雄
5. あ い さ つ 大磯町長 中崎久雄
6. 来 賓 祝 辞
7. 閉 会





「大磯町旧吉田邸再建基金」 ご協力ありがとうございます

■旧吉田茂邸 沿革

1884年(明治17年)ころ	養父・吉田健三が現在地(神奈川県中郡大磯町西小磯)に別荘を建てる
1951年(昭和26年) ~1961年(昭和36年) ~1967年(昭和42年)	総理大臣として外国貴賓を招くため、元芸術院会員吉田五十八氏の設計で京都より宮大工を招き増築 現職の総理大臣を始め多くの政財界人が出入りする(「大磯参り」と言われ、当時の大磯は吉田の代名詞と称された)
1969年(昭和44年)	西武鉄道株式会社の所有となる
1979年(昭和54年)	大平正芳総理・カーター米大統領による日米首脳会談の会場となる



吉田茂 1878-1967
本邸をバックに(昭和41年) (撮影/吉岡専造氏)

■保存・再建に向けて

2005年(平成17年)	所有者が公的機関での買い取りを要望 11月、神奈川県と大磯町連名で、国による整備活用の要望書を安倍晋三内閣官房長官に提出
2006年(平成18年)	町議会や区長連絡協議会等が町内外から5万人を超える署名を集め、小泉純一郎総理にあて保存の要望書を提出 9月、神奈川県が都市公園として隣接する県立大磯城山公園と一体整備の方針を固める
2008年(平成20年) 2月7日	三好正則大磯町長が松沢成文神奈川県知事に「旧吉田茂邸建物建築利用に係る提案書」を提出
2009年(平成21年) 3月22日	原因不明の出火により本邸焼失
7月1日	「大磯町旧吉田茂邸再建基金」を設置し募金活動を開始。
7月9日	町民による再建検討委員会や町議会特別委員会を中心にまとめられた「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」を三好町長が松沢県知事に提出し、再建への本格的な取り組みが始まる
12月21日	県議会12月定例会において、大磯城山公園の公園整備事業用地(旧吉田茂邸)の取得にかかる提案が可決される

■焼失前の建物

数寄屋風和風建築で延床面積約300坪、総檜造の木造2階建

楓の間(応接間)は北山杉の梁、赤松一枚板の床の間、掛け軸など

ローズルーム(ダイニングルーム)には羊のなめし皮製の壁

蘭の間(温室)にはブーゲンビリア、ハイビスカスなど20種類の熱帯植物(※温室は現存)

旧吉田茂邸写真



本邸正面
撮影日:2007年11月27日



2階居間
(炬燵の上に官邸直通黒電話)



1階応接間
(1979年日米首脳会談会場)



1階ダイニングルーム
(奥に蒋介石寄贈の衝立)



炎に包まれる本邸
撮影日:2009年3月22日



焼け落ちた本邸
撮影日:2009年4月3日

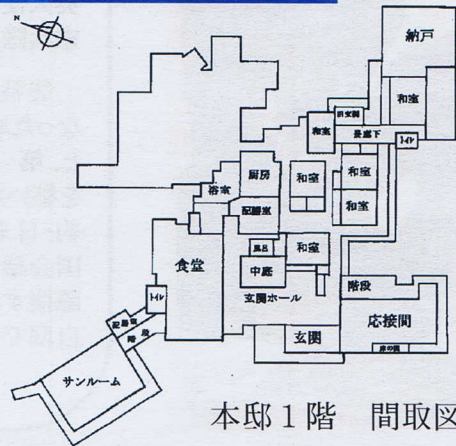
本邸焼失前の地図

所在地：神奈川県中郡大磯町西小磯418

敷地面積：約33,000㎡（10,000坪）

建物構造：木造二階建 総檜造

延板面積：約1,000㎡（303坪）



本邸1階 間取図

◇1階 インテリーム (ロースルーム)



◇1階 応接室 (楓の間)



◇2階 居間 (金の間)



◇2階 寝室 (銀の間)



◆旧吉田茂邸入口



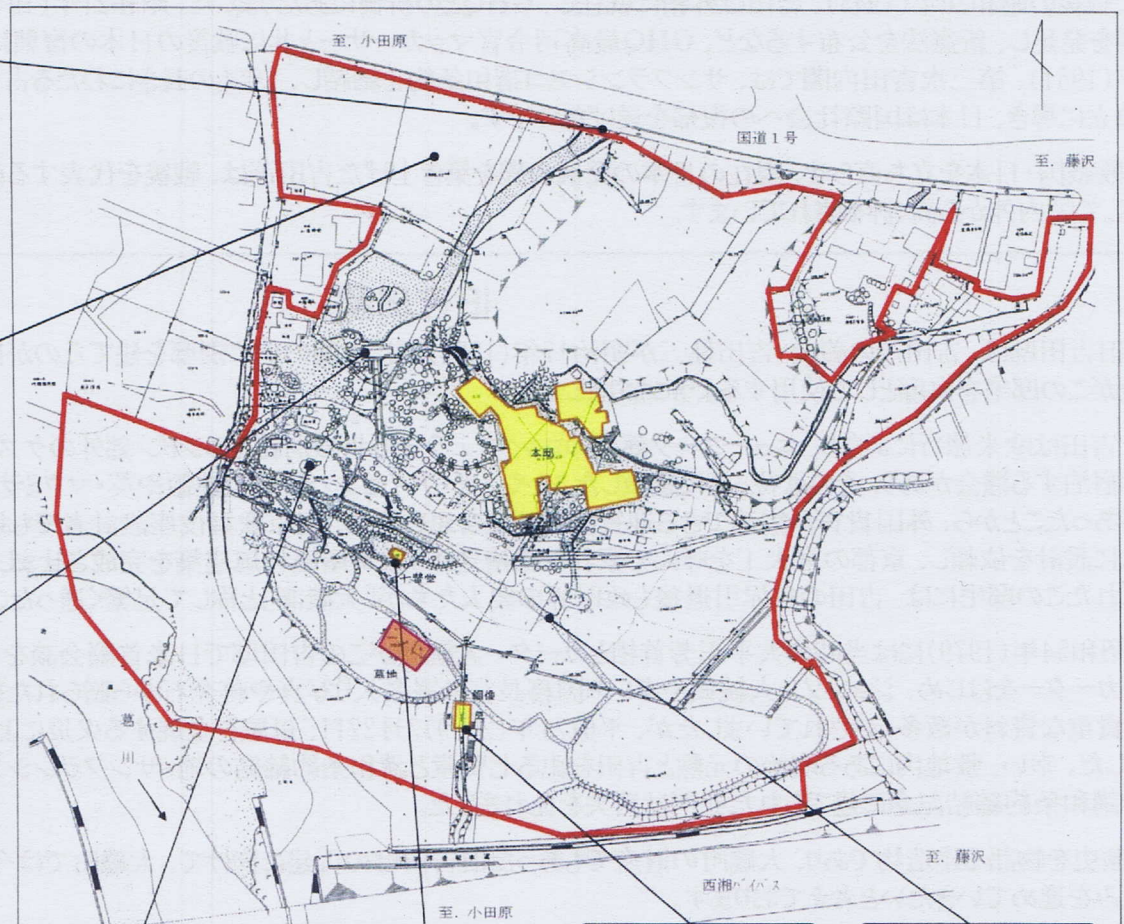
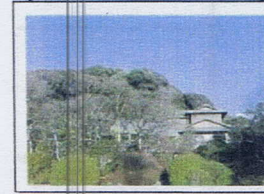
◆駐車場 (旧バラ園)



◆内門 (兜門・講和条約門)



◆旧吉田茂邸 (建物) 正面



◆心字池



◆七賢堂



◆銅像 (吉田茂)



◆庭園内の園路





吉田茂 1878-1967

明治11年(1878)自由党员・竹内綱の子として生まれ、幼少期に貿易商吉田健三の養子となる。東京帝国大学卒業後外務省に入り、奉天総領事・駐伊・駐英大使等を歴任。太平洋戦争末期には近衛文麿元首相らと和平工作を企て、憲兵隊に拘置された。

終戦後は東久邇宮・幣原両内閣の外相となる。昭和21年(1946)公職追放となった鳩山一郎の後任として自由党総裁に就任し、日本進歩党との連立のもと、第一次吉田内閣を組閣。日本国憲法の制定など、戦後の日本民主化の礎を築いた。昭和26年(1951)第三次吉田内閣のとき、サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約に調印。池田勇人や佐藤栄作を代表とする官僚出身の国会議員を重用し、後の保守本流の形成へと繋がった。政界引退後は大磯に隠棲するも、その後も政界に絶大な影響力を誇った。昭和42年(1967)大磯の自邸で亡くなり、戦後初となる国葬が執り行われた。享年89歳。

吉田茂と戦後の日本

昭和8年(1933)、日本は国際連盟から脱退し、国際的に孤立する中、ドイツと急速に接近します。戦前より親英米派であった外務省出身の吉田茂はこの状況を危惧し、駐英大使として日独伊防共協定に断固反対し、対英米戦争に反対の立場を貫きました。その後、外務省を退官した吉田は、対米関係の悪化に憂慮し、和平工作に奔走します。第二次大戦後の昭和20年(1945)、吉田は外相に就任し、GHQとの折衝にあたりました。昭和21年(1946)には第一次吉田内閣を発足し、新憲法を公布するなど、GHQ最高司令官マッカーサーと共に戦後の日本の復興に乗り出します。昭和26年(1951)、第三次吉田内閣では、サンフランシスコ講和条約を締結し、7年もの長きにわたる占領を終結させ、日本を独立に導き、日本は国際社会への復帰を遂げたのです。

敗戦国・日本を立ち直らせ、現在の日本の発展の礎を築き上げた吉田茂は、戦後を代表する政治家、「大磯の賢人」として国内外から高く評価されています。

旧吉田邸

旧吉田邸は、吉田茂の養父・吉田健三が明治17年(1884)頃に大磯の地に別邸を建てたのが始まりで、その後吉田茂がこの邸宅を自邸として使用するようになりました。

吉田は欧米旅行にあたり、ニューヨーク郊外のロックフェラー三世の別荘やロンドン郊外のケズウィック氏の邸宅などに宿泊する機会があり、その歓待ぶりに感激したことや、米・アイゼンハワー大統領や英・マクミラン首相の訪日の予定があったことから、外国貴賓が宿泊できる迎賓館の新築を思い立ち、東京歌舞伎座設計者でもある建築家・吉田五十八に設計を依頼し、京都の宮大工を呼んで豪壮な総檜造りの数寄屋風和風建築を完成させました。「吉田御殿」と呼ばれたこの邸宅には、吉田の政界引退後も政財界の要人たちが「大磯詣」と称して足繁く通ったことが知られています。

昭和54年(1979)には当時の大平正芳首相とカーター大統領がこの吉田邸で日米首脳会談を行っています。邸内にはカーターをはじめ、ジョンソン大統領やダレス国務長官の署名入り写真や蒋介石から贈られた衝立など、政治史を彩る貴重な資料が数多く残されていましたが、平成21年(2009)3月22日、母屋を全焼する火災により灰燼に帰してしまいました。幸い、敷地内にある明治の元勳と吉田を祀る七賢堂と講和条約締結の地・サンフランシスコを望む吉田の銅像や講和条約締結記念に建てられた兜門は消失を免れました。

歴史を物語る建造物であり、大磯町の財産でもあった旧吉田邸の再建に向けて、大磯町では今後、多岐にわたる取り組みを進めていきたいと考えております。

制作・編集

大磯町郷土資料館

〒255-0005

神奈川県中郡大磯町西小磯446-1

電話 0463(61)4700

<http://www.oiso.town.kanagawa.jp/shisetsu/shiryoukan/index.html>

<http://scn-net.easymyweb.jp/member/oisomuseum/>



大磯町郷土資料館

吉田邸再建へ 2億7000万円寄付

大磯町は27日、3月に解散した財団法人吉田茂国際基金（東京都港区赤坂）から2億7658万円の寄付の申し出があり、7月5日に寄付目録受領式典を行つと発表した。

国際基金は、吉田茂元首相の功績を記念して、教育・学術・

国際基金、大磯町へ

文化活動の助成や内政、外交の調査研究などの事業を続けてきたが、公益法人改革で公益財団法人や一般財団法人への移行が難しくなつたとして解散を決定、残った財産を同時に寄付することにした。

同町の旧吉田茂邸が2009

年3月に焼失後、町は旧吉田茂邸再建基金条例を策定し、再建資金の一部にあつてようと募金を始めた。現在、募金と同町の積立金を合わせて6453万円集まっている。同町は今回の寄付で約7億円を再建費用にあて、残りは、再建後の旧吉田邸維持管理費や国際基金の内政、外交資料の保存に活用したいとしている。

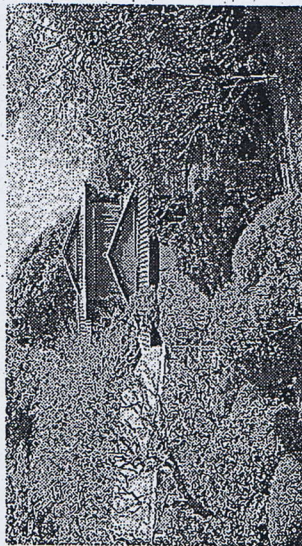
旧吉田邸再建へ 2億8000万円寄付

解散の財団が大磯町に

2009年に全焼した大磯町の旧吉田茂邸再建に向け、今年3月に解散した財団法人「吉田茂国際基金」が、残余財産約2億8千万円を同町に寄付することになった。同町では5億円を目標に市民の善意を募ってきたが、募金額が伸びていなかった。同町では「これで目標額に大きく近づき、再建への機運を高めた」としている。

27日に同町が発表した。旧吉田邸は、政財界の要人が目撃した「大磯参り」の舞台として知られ、吉田元首相の死後も日米首脳会談が実施されるなどし

た。県立公園としての一般公開のための整備が進められていた09年3月、総ヒノキ造りの階建と約900平方



邸が全焼。漏電が原因とみられた。

町では同年7月、旧邸復元を目指す基金を設立し、募金活動を開始。しかし、今年5月末現在の募金総額は計約5千万円で、町が積み立てた1500万円と合わせても目標に遠かった。

元首相を顕彰してきた同法人では、基金設立当初から全面的な協力を約束していたが、今回、解散して6月に残余財産が確定した。町に対し、2億円を邸宅の再建に、残りの約8千万円は運営費などに充てて欲しいとしているという。

来月5日には、寄付と合わせて贈られる直筆書簡や肖像画などの披露や、感謝状の贈呈などが行われる。

（足立萌子）

焼ける前の旧吉田邸＝大磯町提供